

## ごあいさつ



一関信用金庫 理事長

千葉 一郎

会員の皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り、心より厚く御礼申し上げます。当金庫第69期の事業概況と決算の状況を謹んでご報告させていただきます。

平成29年度の我が国経済は、企業業績や雇用環境の改善に支えられ、景気回復が長期化し、個人消費や設備投資も底固く推移しました。一方、管内の経済環境は、総じて緩やかに回復しつつも、個人消費や設備投資の伸び悩みにより実感が乏しい状態となりました。

人口減少と少子高齢化が加速する中、未来永劫、地域に必要とされる金融機関であり続けることを目指し、「安定的な収益基盤の確立」を基本方針とした新中期経営計画「アクションプラン70 t h～変革 (Change) と挑戦 (Challenge)」(平成28年度～平成30年度)に則り、(1)「法人取引に対する取組態勢強化」(2)「個人取引に対する取組態勢強化」(3)「人材育成強化による組織力の向上」に取組みました。

その結果、日本銀行によるマイナス金利政策の影響もあり、資金運用収益は減少しましたが、経費の削減等に努め、経常利益406百万円(前期比136百万円の増加)、当期純利益232百万円(前期比▲4百万円)を計上しております。又、自己資本比率は12.19%と健全な経営を維持しております。

さて一関信用金庫は、おかげをもちまして、創立70周年を迎えました。地域では、人口減少に伴う企業の人手不足や後継者不足問題が深刻化しておりますが、金融面に留まらない課題解決支援こそが、地域金融機関である弊金庫の果たすべき使命であると考えております。

企業の事業性評価に基づく金融仲介機能の発揮や行政及び関係団体との連携強化を通じ、引き続き地域経済の活性化に向け、役職員一丸となって取り組んで参りますので、一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月